



光陰矢のごとし

鳥取県立青谷高等学校外国語指導助手
崔 凤来
クイ・フェンライ

「光陰矢のごとし」、日本に来てもう4年目になります。来る前は日本の生活に慣れるだろうか、日本人と仲良くできるだろうか、いろいろ不安でした。しかし、今では日本にすっかり馴染み、日本の方と交流しています。

1年目は日本に初めて来たこともあり、すべてがとても新鮮でした。その反面、新しい環境では常に日本語に触れていたため、1日が終わると毎日へトへトで、帰宅のため電車に乗ると終点の鳥取駅まで、毎日ぐっすり寝てしまっていたことを、今も昨日のここのように覚えています。

もちろん学校の仕事や授業はとても楽しいです。初めの頃は日本語が思うように話せず、なかなかうまく伝えられなかったことも多かったのですが、今では意思の疎通に不自由を感じません。ただ、授業でたまにチャイニーズジョークを言ったら滑ります…それにめげずに、あらかじめ授業が始まる前に職員室で若い先生に協力してもらって練習しました。ジョークがうけたときはとてもうれしかったです。一時期、突っ込みどころが日中では違うと感じ、ジョークをやめようと思った時もあります。話の前提になる場面や習慣が日本と違うので聞く方も努力が必要のようです。タイミングが微妙なためかもしれませんね。しかしある時、生徒から「崔先生、この前のジョーク面白かったよ」、「崔先生、新しいネタないですか」と話しかけられた時は、とてもうれしく、また、励みにもなりました。今まであきらめず頑張ってきたよかったと思いました。

日本の学生のいいところは、勉強だけではなく部活などもまじめに取り組んでいるところです。私が出勤や退勤の時、一番よく目にする部活は弓道部です。弓道部の生徒はいつも朝早く練習をしていて、放課後も練習しています。生徒の頑張り、今年是中国地区大会に出ることになりました。本当に感心しています。

学生たちの生活習慣の中で、一番驚いたことがあります。それは一部の生徒たちの制服の着こなし方です。男子生徒はズボンをずらし、女子はスカートの丈を短くしてはいています。どちらも下着が見えそうで、日本には下着を見せる習慣でもあるのかなとちょっとしたカルチャーショックを受けました。ちなみに中国では男女とも制服はジャージなので、日本の学生のような格好はできません。

私の仕事の中心は中国語を教えることです。1年目は日本人の先生が主になって授業をしました。私は発音のチェックやお手本が多かったように思います。2年目からは、私が主となりました。



初めの中国語の授業はチャイナドレスを着て行いました

苦労もありましたが、私自身、とても勉強になり、かつ大きく成長することができたと思っています。例えば教え方につ

いて当初は中国式の教え方をしていました。授業内容はテキスト朗読を重点的に、ほとんど私がしゃべっていました。しかし、それでは生徒たちの興味が湧かないのではないかと悩み、考えさせられました。今では授業の中でゲームなどを通して、生徒同士の中国語交流などを行い、生徒が自ら話す機会を増やしています。さらに、中国の祭日や歌を紹介したり、中国のビデオ鑑賞をしたり、クイズ大会や調理実習などを通して中国の文化を理解してもらっています。そういった内容で授業を進めると、生徒がとても喜んでくれるので、よい励みになりました。

学校の先生方は優しくて、とてもお世話になっています。いろいろと失礼なことをしてしまったにも関わらず許していただいたり、またかわいがっていただいたり、本当に感謝しています。中でも、鳥取に来た当初からとても親しくしている先生がいます。その先生からは1年目の時「崔さん、日本の体験を書いて、本を出したらどうですか」と言われたことがあります。その時は「無理です。本を書く才能なんかないですよ」と答えました。しかし、この間、「中国嫁日記」(中国人女性と結婚している男性の日記)を読んで、私も同じような経験をたくさんしていたことに気づき、早くから日記を書いておけばよかったかなと後悔しています。本を出せなくても、振り返ってみるといい思い出になったかもしれません。それは文化の違う人たちと過ごすという大切な経験です。私はこの4年間に異なる文化を理解し、体験する



中国語授業の風景



学校の文化祭で中国語のクラス全員が中国語の歌を発表する場面

ことなどを通じていろいろ学ぶことができました。今は視野も広がり、考え方や理解の仕方とも変わってきたように思います。

日本に来て私はいい人にたくさん出会いました。プライバシーのこともあり、ここでは名前を挙げませんが、私はその方々と知り合ってとても幸せです。なんでも相談でき、なんでもアドバイスしてくれるいい方々です。私は彼らの幸せを祈っています。毎日彼らの顔を見るだけで、彼らが私の周りにいるだけで、私はうれしく思っています。何よりも私自身、日本で生活を体験し、国を越えた友情ができて幸せです。小さなことかもしれませんが、私はこの気持ちをみなさんに伝えたかったです。国を越え、本当の友達ができることを。

みなさん、こんにちは。中国の内モンゴル自治区・阿荣旗から参りました。吉林省の長春師範学院で日本語課を専攻していました。卒業後、韓国系船舶会社で韓国語と日本語通訳を担当、その後上海の広告会社でチケット担当をしていました。2009年初めて来日し、鳥取県の青



谷高等学校と岩美高等学校で中国語指導助手として働いています。趣味はダンスと読書です。今年で4年目になり、日本の友達だけでなく、欧米系の友達もたくさんでき、英語が少し話せるようになりました。どうぞよろしくお祈りします。

崔 凤来



光阴似箭，我来到日本已经第四年了。当我踏进日本这片国土之前，一直担心能不能习惯上日本的生活，能不能和日本人成为朋友等等。但是现在，我习惯了这里的生活，和日本人也成为了朋友。

第一年刚到日本时，我对所有事物都感到很新鲜。在新的环境里，听到的、所说的都是日语，这使我每天都感到很疲惫。当我乘上回家的火车时，几乎每天都熟睡到终点站 - 鸟取车站。

当然，学校生活与教学工作是非常开心的。刚开始由于日语说的还不够好，很多时候都无法准确表达自己的想法，但是现在基本上在表达上没有什么问题了。只是偶尔讲中国的笑话时，大家有些听不懂。但是，只要在进入教室之前，在办公室练习几遍，有时学生们还是能听懂的。每当学生们听懂我的笑话时，我就会非常高兴。其实，有一段时间我也气馁过，认为可能是中日笑话的笑点不同。但是，当有学生对我说，“崔老师，你上次讲的笑话非常有意思”，“崔老师，有没有新笑话啊”等等时，我就非常高兴，而且对我来说，是一个非常好的鼓励。因此，至今我也没有放弃讲笑话。

日本学生的可爱之处在于，不仅在学习上非常努力，而且在课外活动上也非常努力。每次我上下班时都能看到的课外活动便是弓道部。弓道部的学生每天上课之前在练习，下课后也在练习。之所以它们非常努力，今年成功进入了中国区大赛。我听了这个消息后感到非常感慨。

在学生们的生活习惯中，有一个使我非常吃惊，那就是一部分学生的校服。有些男生将校裤的裤腿拉得很低，有些女生将校服卷得非常短。刚开始，我还以为日本有露内裤的文化呢，还因此受到过文化冲击。顺便提一下，中国学生的校服是运动装，因此很难穿成那样。

我的工作主要是教中国语。第一年主要由日本的老师来教，而我主要做发音，以及改正学生们的发音等工作。但从第二年开始，在中国语课上，基本

上是我直接教课。这对我来说是一个很好的学习机会，我因此也成长了很多。比如说，在教学方式上，刚开始我一直采用中国的教学方式。在课堂上，以课本为主，多念多写，基本上都是我在说。采用这样的教学方式，远远勾不起学生的学习兴趣，这使我非常苦恼，便不断地去琢磨并思考。结果，我在教学方面发生了巨大的改变。在课堂上，很多时候是通过玩游戏的方式教学，让同学们多用汉语交流，比起以前，学生们说话的机会多了很多。有时还介绍中国的文化，教授中国的歌曲，欣赏中国的电影，举办智力竞赛活动，体验中国料理等等。这样的教学方式很受学生们的欢迎，同样我也很高兴。

学校的老师们是非常亲切的。即使我有很多失礼的地方，他们仍然原谅了我，并且接受了我，疼爱我。其中，有一位老师自从我来到鸟取以后一直关系很好的。第一年的时候，那位老师曾对我说“崔老师，你把你在日本的生活写下来，出本书如何？”当时我说“不行，我没有写书的才能”。但是，这两天我看了一本《中国嫁日记》（与中国女性结婚的一位日本人写的日记）的漫画书后，我发现和我在日本的经历和那本书里写得很相似，因此非常后悔，当时没有写日记。虽然谈不上出书，至少也能留下美好的回忆。能够和不同文化的人生活在一起，将成为非常宝贵的经验。我在日本的这四年期间，通过理解和体验不同文化，学到了很多。我的视野扩大了，想法和思考方式也发生了改变。

我来到日本以后，认识了很多的朋友。说到名字可能涉及到隐私问题，所以在这里就不提名字了，但是我非常高兴能认识到他们。和他们在一起，我有任何想法或苦恼都可以和他们商量，并且可以得到很宝贵的意见。我很高兴每天能看到他们，也很高兴他们在我周围。我祝愿他们幸福，而且我也感到很幸福，因为我体验到了日本的生活，我有了超越国际的友情。我所接触的事情可能都微不足道，但是我很想将我的这种感情告诉大家。超越国家也能交到真心朋友。

中国語